

# ブルースタジオ テーマは「つながり」 学生有志と木賃再生



木賃再生にかける意気込みを表現するワークショップのコアメンバーら。前列中央がブルースタジオの大島専務。同左が学生有志のリーダー・連さん（東京・六本木のムジスタジオで）

リンベーション事業を手掛けるブルースタジオ（東京都中野区）は学生の有志と共に「木造賃貸アパート再生ワークショップ（WS）」を展開している。

フィールドワークを通じて選定した既存の木賃アパートの再生案を作成し、オーナーに提案。再生完了後は提案した学生が住むと同時に入居者を募る。共同体を築きあげ、次世代につなげる計画だ。

木造アパートの多くは、空室や賃料低下など、収益性が悪化している。学生の提案により再生することで入居者を確保でき、オーナー側にもメリットがある。ブルースタジオの大島専務は「『家』を最初に意識するのは独り暮らしを始める時で、最初に住む住宅の認識がその後の住環境

に影響する」という仮説を立てている。「例えば、赤ちゃんが手にする玩具などと似ている。設備が整った工業化住宅に対し、木造軸組み賃貸アパートは、可変性があり、地域との連携も期待できる」と説明。WSは「住育」の側面もある。「彼らはリアルな体験の場を求め、本気で取り組んでいる。安心して任せてほしい」とオーナーに呼び掛ける。

WSのテーマは「つながり」。世代、地域、オーナー

## 自ら提案し暮らす

### 共同体の構築目指す

学生有志のコアメンバーは約15人。WS立ち上げメンバーの1人で、慶応義塾大学環境情報学部4年の連（むらじ）勇太朗さん（関東）が駄木でフィールドワークを

実施した。学生有志のコアメンバーが、建築、都市計画、デザインなどを専攻する約50人の学生が参加している。WSは毎月1回行われ、東京・下北沢、高円寺、千駄木でフィールドワークを

【木賃アパート】60年〜70年代に木造軸組工法で建設された民間賃貸住宅。都内の木賃アパートは16万〜17万戸あるとされる。そのうち80%弱が単身者向けで、経済成長を担った団塊の世代が青春時代を過ごした。大島専務は「向こう三軒両隣」と言われる支え合う共同体意識があり、将来を夢みる若者のパワーがあった」と解説。「漫画やフォークソングなどの文化が生まれた共同体のエネルギーに対し、今の学生は好奇心を抱いている」という。

「職人がつながることで、新たな共同体が生まれることを期待している。今後、夏までに物件を選定し、再生に着手、09年中の完工を目指している。

「彼らはリアルな体験の場を求め、本気で取り組んでいる。安心して任せてほしい」とオーナーに呼び掛ける。

下北沢では、男女ペアになって街を歩き、建物や街の価値を発掘。ブログに写真や記事を寄せた。約2時間で、気づきや疑問など200件弱集まった。

「主観の内容だが、今後議論が深まる中で、創造的合意形成が進む」と連さんは仮説を立てている。複数の人がかかわりながら成果を生み出す方法論として進化・確立させたいという。

フィールドワークでは連さんが研究しているウェブを用いた設計手法「アーキコモンズ（Archicommunity）」を取り入れている。アーキテクチャー（建築）と公共政策の概念の1つ、コモンズ（共有地）を合わせた造語だ。建築は建物単体で成立するわけではなく、住まい手や利用者、地域との関係性を

また、成果は建築だけでなく、参加者の個性や能力に応じ、イベント開催や冊子の発行など多様な展開になるという。大島専務は「面白いムーブメントになる」と期待を寄せている。